

温泉とスポーツの融合

～スパトライアスロン2009北海道大会～

6月21日(日)、登別温泉で『スパトライアスロン2009北海道大会』（同実行委員会主催）が行われ、道内外から526人が参加しました。

このイベントは、トライアスロンとスパ（温浴）を融合させた新しい競技スポーツとして、全国の温泉地で開催されており、道内では今回登別温泉で初めて開催されました。

競技は、タイムを競うスパトライアスロンと男女ペアで参加するリレー、コース上のクイズやアトラクションの得点を競うスパアスロン、登別のみのご当地レース・コース上に設けられた2カ所の撮影ポイントで撮影し、そのタイムと写真の内容で競う環境フォトアスロンの4種目を実施しました。

スパアスロンの参加者は、コース上に設けられた登別温泉にちなんだ7つのクイズやこの日の天然足湯の温度を当てるなどの3つのアトラクションを行いながら、登別の自然や景観を存分に満喫していました。



▲レースの途中の足湯ゾーンでは浴衣を着て足湯を満喫



▲スパアスロンではコース上に設けられたクイズに挑戦

知里真志保を未来へ語り継ごう

～知里真志保生誕100年
記念フォーラム～



▲一緒に過ごした数年は本当に幸せだったと語る夫人の萩中美枝さん

7月4日(土)、市民会館で『知里真志保生誕100年記念フォーラム』（北海道アイヌ協会登別支部、知里真志保を語る会主催）が行われました。

この催しは、アイヌ語学者知里真志保が今年生誕100年を迎えたのを記念して開催され、約400人が参加しました。

第1部の記念講演では、知里真志保の歩みや直接学んだ生徒から見た知里先生、アイヌ語学者から見た知里真志保が果たしたアイヌ語研究の業績、夫人から見た夫・知里真志保など、さまざまな角度から知里真志保を紹介しました。

第2部の記念フォーラムでは、市内各地の川や山のアイヌ語の由来を紹介したり、自作の『フンベ山ものがたり』の一人語り、登別古式舞踊後援会による『鯨踊り』などが披露され、観客は偉大なアイヌ語学者知里真志保の人柄や業績とアイヌ文化についての理解を深めていました。

プロの技を間近で観戦

～レラカムイ北海道登別合宿交流イベント～

6月28日(日)、日本工学院北海道専門学校体育館でプロバスケットボールチーム『レラカムイ北海道登別合宿交流イベント』が行われました。

このイベントは、レラカムイ北海道が6月23日(火)から29日(月)までの7日間、登別に合宿誘致してもらったお礼として行ったもので、登別市民約160人と札幌から観光バスで約140人の計300人のレラカムイファンが参加しました。

イベントでは、最初に、選手による紅白戦が行われ、プロ選手の素晴らしい技術とスピードある白熱したプレイなどを披露。その後は、ファンを含めたドリブルリレーなども行われ交流を深めました。

このほか合宿期間中には、市内の小・中学校と一緒に給食を食べたり、バスケットボールの技術指導を行うなど、市民との交流を行いました。

